



校長室だより 14号

中島 悟

【キャッチフレーズ】

未来に残そう 伝え築いた 振徳商業
目指せ 三種目 日本一 !

【今週の行事】 6月 8日(火) 第2回PTA理事会
10日(木) 第3回進路模試
12日(土) 県ワープロ競技大会(口蹄疫の関係で各校実施)
13日(日) 日商簿記検定

【部活動紹介】 ワープロ部、 簿記部

1	ワープロ部	旧顧問 谷口 善章	20周年記念誌より抜粋
2	ワープロ部	投稿者不明	30周年記念誌より抜粋
3	簿記同好会	旧顧問 小東 一生	20周年記念誌より抜粋
4	簿記部	投稿者不明	30周年記念誌より抜粋

ワープロ部(原文) 旧顧問 谷口 善章

急速な高度情報化、国際化、産業構造・就業構造の急激な変容、そして企業のOA化の波に乗って、学校にも多くの機器が導入されつつある昨今、本校にも日本語ワードプロセッサが、県下でも一番早い時期に導入された。それは昭和61年の夏宮崎県商業教育研究会が北郷町でワープロの実技講習会を開催したことに端を発する。この講習会のため福岡より最新の機械が25台送られてきた。無事講習会が終了して25台の機械を送り返そうという段階になり、このまま福岡へ送り返すより「日南へ置いておきましょう」との提案があり、早速9月より無料で半年間使用できることになった。そして秋の検定では3年生と部活生を中心に20名以上の3級合格者を数え、恐らく県下でも一番早く資格を手にして卒業していった。そしてこの25台の機械は3年生のみならず必修クラブや営業科の2年にも利用され、非常に多くの時間有効に働いていたといえる。

さて昭和62年より5年間の買い取り方式リースで、愈々ワープロ同好会の発足に至る。そして2年生7名、1年生18名の計25名でスタートした。これにはPTAの強力なバックアップがあった訳で、他校からは羨望のまなこで見られた。この年は県下の各高校に続々とワープロ部が設置された記念すべき年であった。特に商業高校では2、3台の専用機があれば何人かで、それを取り囲みながら練習した。更にパソコンでの兼用機としての利用で新設のワープロ部は急速に広がっていった。もちろんこれには和文タイプ部の衰退という悲しい事実もあった。

この昭和62年は西都商業高校で実施された、県下で初めてのワープロ競技会にも参加して、他校のレベルの高さに驚いたりもした。ただ他校が英文・カナタイプ部より移籍の3年生を中心に出場させていたのに対し、本校は全くの素人から始めて、タッチメソッドも余り完成していない1・2年生の出場であった訳で善戦したと言える。

ところで昭和63年度になると登録部員数も43名になり、部活動らしい雰囲気も出てきて、生徒総会において正式の部として認められ部員一同感激したし、予算の配分もあった。6月には宮崎商業高校で開催された県下高校ワープロ競技会、2月の宮崎女子高校での新人ワープロ競技会にも参加して、次第に力を蓄えつつある。特に平成元年

1月には最新鋭機24台が配置され、合計機械台数49台になり1学級そっくりの授業が可能となった。いわゆる一人一台での対CRTの練習・訓練が出来るようになったことは大変喜ばしいことである。

過去3年間の中学校3年生を対象とする体験入学の際にも大変好評を受けており、今後は全校のすべての生徒が卒業までには必ずタッチして、できるだけ高いグレードの職業資格級をパスして実社会ですぐに役立つよう、部活動以外にも次第に利用度を高めていきたい。

ワープロ部 (原文)

現在1年生21名、2年生9名、3年生5名で活動しています。今年は1年生が多く、部活動が活気に満ちています。目標は、来年のあらゆる大会で、3位以内に入賞することです。6月の大会では、速度が惜しくも4位でしたが、来年には3位以内入賞を目指します。今後の課題は一人一人が目標を持って努力することと、部全体のチームワークを高めて行くことです。来年の今ごろにはトロフィーを振徳商業に持って帰れるようがんばります。

簿記同好会 (原文)

旧顧問

小東 一生

簿記同好会は、S.59年度に全商100周年の記念行事の一つとして行われた簿記コンクールに合わせて設立されたものです。それまで振徳には簿記クラブ等のサークルはありませんでしたので大会参加に向けては、3年生を中心とした、いわゆる簿記に興味、関心のある成績優秀な者をピックアップするというかたちでの選抜チームでした。当時その顧問を担当されたのが工藤公洋先生です。コンクールへの熱心な取り組みで、第1回の宮崎高等学校簿記コンクールでは個人の部で営業科に在籍していた川俣君が10位に入賞しました。また、S.61年度の第2回大会では稲田さん、安藤さん、奥野さんの3人組が団体3位、このうち商業科に在籍していた奥野さんは個人の部で1位という輝やかな成績をおさめています。また、この年に行われた東京会計専門学校主催コンクール南九州大会でも奥野さんが個人1位という素晴らしい成績をとりました。S.62年度顧問が小東一生先生になりました。現在、県内の商業高校でも簿記コンクールへの気運が高まり各先生の熱心な指導のもと回を増すごとに参加校も増えてきています。

ただ、我が振徳商業についていえばカリキュラムの関係でどうしても競技大会に出場させるのは3年生にたよらなければならない現状があります。他の部活動と違ってどちらかと言えば授業の延長という面もあり一年生の入部も若干名です。競技大会での問題範囲も”会計”の前半まででより高度な知識を要求される傾向になってきており益々、早い時期からの選手養成が必要となっています。S.63年度第4回大会は団体で7位に終わり最近の成績は低迷していますが、ひと頃の華々しい成績の振徳商業の復活を目指して1人でも多くの部員が増えて意欲ある活動をしてくれることを期待しております。

簿記部 (原文)

簿記部の現在の状況は9人程度の少人数の部活です。昨年は廃部寸前でしたが、なぜか1年生がたくさん入部してきました。入部してくれたおかげで昨年では考えられないほど、騒がしくなりました。

抱負は団体で1位か2位に入ること、個人の部でも1位から2位に入賞したいです。先輩たちが築いてくれた伝統を自分たちの代で終わりにせず、1年生たちに後を継いで、発展してほしいと願います。